

教授  
高橋幸夫

## ■ 学歴

---

1. 2009年京都大学大学院経済学研究科博士後期課程修了

## ■ 学位

---

1. 経済学修士（京都大学 2006年）

## ■ 研究分野

---

1. マーケティング（広告・ブランド）
2. デザインマネジメント
3. 地域活性化マーケティング

## ■ 研究キーワード

---

1. 地域におけるマーケティング・コミュニケーション
2. デザイン・インスパイアド・マネジメント
- 3.

## ■ 研究課題

---

1. マーケティングコミュニケーション活動による大学生のキャリアデザイン力向上についての考察
2. 企業経営におけるデザインマネジメントの有効性についての考察

## ■ 担当授業科目

---

1. 初年次セミナー I（前期）必修
2. 専門演習 I・II（前期・後期）必修
3. 卒業研究（前期・後期）必修
4. マーケティング入門（前期）必修
5. 広告宣伝論（前期）選択
6. 消費者行動論（後期）選択
7. イベント・テーマパーク論（後期）選択
8. ブランド戦略論（後期）選択
9. キャリア・デザイン論 I（後期）選択
10. 地域プロジェクト（後期）選択
11. メディア政策論（前期）選択

## ■ 授業を行う上で工夫した事項

---

※ 助教・助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項

- |    |                        |
|----|------------------------|
| 1. | 授業科目名【 初年次セミナー I（前期） 】 |
|----|------------------------|

	大学生生活の始まりにあたり、大学生としての心構えから授業の受け方、ノートテイキングなど基本的プレゼンテーションなどの理解度向上と「社会人基礎力」をベースとした学生生活の考え方を始動した。
2.	<p>授業科目名【 専門演習Ⅰ・Ⅱ 】</p> <p>デジタルマーケティングの基本的文献を輪読、毎回PPTによる発表形式の演習とし、学生の論理的思考とプレゼンテーション能力の向上に努めた。</p> <p>社会貢献活動の企画・実施を演習授業に取り入れた。</p> <p>さらには、就活を控える学生に対して、「企業研究」「自己分析」「適職診断」「面接」の指導を行なった。</p>
3.	<p>授業科目名【 マーケティング入門 】</p> <p>受講者がマーケティングの基本的な概念を理解し、実際の企業活動の中でマーケティングが担う役割を具体例、特に映像を用いて理解できる仕組みを構築した。</p> <p>実用性の高い知識と応用力を身のつけるために実務家の講義も実施した。</p>
4.	<p>授業科目名【 ブランド戦略論・デザインマネジメント論・広告宣伝論 】</p> <p>各科目とも基本理論の習得を基礎に、外部より各領域の専門実務家を招聘し、ワークショップ展開の授業を行なった。これにより履修学生は各科目に対する興味と意欲の向上を目指した。</p>

## ■ 学会における活動

	加入時期	所属学会等の名称	役職名等（任期）
1.	2005年4月～現在に至る	商品開発・管理学会	
2.	2021年12月～現在に至る	日本比較文化学会	

## ■ 研究業績等に関する事項（2023年度）

	発行又は 発表の年月	著書、学術論 文等の名称	単著・ 共著の別	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名 称	概 要
<b>（著書）</b>					
1.					
2.					
3.					
<b>（学術論文）</b>					
1.	2023年6月	キャラクターとテーマパーク経営についての考察	単著	西南女学院大学人文学部観光文化学科研究報告編集委員会 観光文化学科研究報告 Vol.2,17～25頁	国内では、巨大テーマパーク全盛といわれる状況の中、地方のテーマパークにおける持続的な経営にはいかなる視点が重要なのか。本稿ではキャラクターの活用方法に着目し、事例によって考察した。

2.	2023年7月	大学における社会人基礎力育成の考察－女子大学と地方自治体の連携活動を事例として－	共著	日本比較文化学会 比較文化研究No.15 2,29～41頁	本稿では、女子大学と地方自治体の連携による社会人基礎力の育成について論じた。「社会人基礎力」とは、経済産業省が2006年に提唱した言葉で、職場や地域社会で多様な人々と協働するために必要な基礎的能力のことである。本稿では、社会人基礎力とProject Based Learning(PBL)について説明し、女子大学と自治体とのPBL型連携活動を紹介し社会人基礎力とPBLとの関係を考察した。その活動を通して学生が何を学んだかを述べ、社会人基礎力とPBLと関係を考察した。 共同研究につき、本人担当部分抽出不可能
3.					
(翻訳)					
1.					
2.					
3.					
(学会発表)					
1.					
2.					
3.					

## ■ 外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究				
	研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）
1.	日本と中国における大学キャリア教育に関する研究 女子大学生の社会人基礎力の育成を中心にして	西南女学院大学	○神崎明坤 塚本美紀 高橋幸夫 (大連大学日本語言文化学院 林楽常)	950,000

			(上海外国語大学日本 経済学院 王小燕)	
2.				
3.				

(2) 個人研究				
	研究題目	交付団体	交付決定額 (単位:円)	備考
1.	北九州市内交流施設における コンテンツ企画・開発	旭興産株式会社	2,200,000	
2.	響灘および行橋地域における コンテンツ開発	株式会社オリエンタル コンサルタンツ	1,100,000	
3.				

## ■ 社会における活動

	任 期 期 間 等	団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.			
2.			
3.			

## ■ 学内における活動等 (役職、委員、学生支援など)

	任 期 期 間 等	会議・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2018年～2023年	就職委員会	副委員長 (2022年～2023年度)
2.	2020年～2023年	情報システム管理運用委員会	
3.	1019年～2023年	学生個人情報保護委員会	